

# 植物防疫講座

## 病害編-40

### 果樹類に発生する主要病害と防除の実際

一般社団法人 日本植物防疫協会 専務理事 **とみ 田 やす のり**

#### はじめに

日本における主要果樹の2020年産の栽培面積は、ミカンが39,800 ha、リンゴが37,100 ha、カキが19,000 ha、クリが17,900 ha、ブドウが17,800 ha、ウメが14,800 ha、日本ナシが11,000 ha、モモが10,100 haとなっており、(農林水産省大臣官房統計部, 2020) ミカンとリンゴの栽培面積が多く、主要果樹栽培面積の19%、18%を占めている。このような主要果樹の栽培状況下において、生産者は果実の収量や品質の低下を招く病害虫の被害をできるだけ少なくすることができる病害虫防除対策を要望している。

そこで、主要果樹栽培で発生する病害に対して適切な防除を実施する際の参考となるように、今回は主要果樹に発生する主要病害と果樹病害に対する防除の考え方について紹介する。なお、樹種ごとに発生する病害の発生生態とその防除方法については、今後の植物防疫講座の病害編で順次紹介していくので活用していただきたい。

#### I 主要果樹に発生する病害と防除実態

果樹病害を引き起こす病原は、大きく分けると糸状菌、細菌、ウイルスの3種類であり、日本植物病名目録(日本植物病理学会, 2009)によれば、それぞれの病原が占める割合は84%、5%、11%であり、大半が糸状菌によるものである。

また、植物防疫法において、「指定有害植物」を定め、主要病害と位置づけているが、「指定有害植物」とは、国内に広く分布し、急激にまん延して農作物に重大な損害を与える病害で、果樹病害では14病害が指定されている(表-1)。

果樹病害の発病部位は根、枝幹、新梢、葉、果実と樹体全体におよび、それぞれの部位で発生する病害も異なる。また、果樹は、永年性作物であるため、水稻や野菜の病害では見られない菌種や性質が異なる病害も発生する。

表-1 「指定有害植物」として指定されている果樹病害

樹種名	病原菌名
カンキツ	かいよう病菌, そうか病菌, 黒点病菌
リンゴ	黒星病菌, 斑点落葉病菌
ブドウ	晩腐病菌, 灰色かび病菌, べと病菌
カキ	炭疽病菌
ナシ	黒星病菌, 黒斑病菌
モモ	せん孔細菌病菌
キウイフルーツ	かいよう病菌
オウトウ	灰星病菌

主要果樹に発生する病害は樹種により異なる。そのため、統計上で発生面積が多い病害を主要病害とみなし、樹種ごとの主要病害の発生面積と実防除面積を2020年の統計数字から表-2に整理してみた(日本植物防疫協会, 2020b)。

#### 1 カンキツ

発生面積が多いのは黒点病で、実防除面積も多くなっている。また、そうか病(糸状菌が病原)とかいよう病(細菌が病原)も常発する病害であり、実防除面積は多くなっている。

#### 2 リンゴ

リンゴは6病害と主要病害数が多いが、指定有害植物としても黒星病と斑点落葉病が指定されている。両病害とも発生面積が多い。ただし、主要病害の6病害についての実防除面積はほぼ変わらないので、いずれも重要病害として認識し、防除が実施されていると考えられる。

黒星病は、近年、青森県では基幹防除剤として使用されてきたDMI剤に対する耐性菌の発生のため激発した圃場が見られたが、防除体系の見直しにより現在は発生が落ち着いている。輪紋病も古くから発生の記録があり、主要品種の‘ふじ’は罹病性である。また、6病害以外にも近年、炭疽病、褐斑病等多発する圃場が見られる。また、すす斑病、すす点病の発生も認められる。

#### 3 ブドウ

ブドウはリンゴと同様に6病害と多くの病害が記載されている。その中で、気象条件により発生量は左右されるが、常発病害であるべと病、晩腐病の実防除面積が多いにもかかわらず、発生面積が多いことから、現在の防除対

Major Diseases that Occur in Fruit Trees and Actual Control.

By Yasunori TOMITA

(キーワード: 果樹類, 主要病害, 防除)